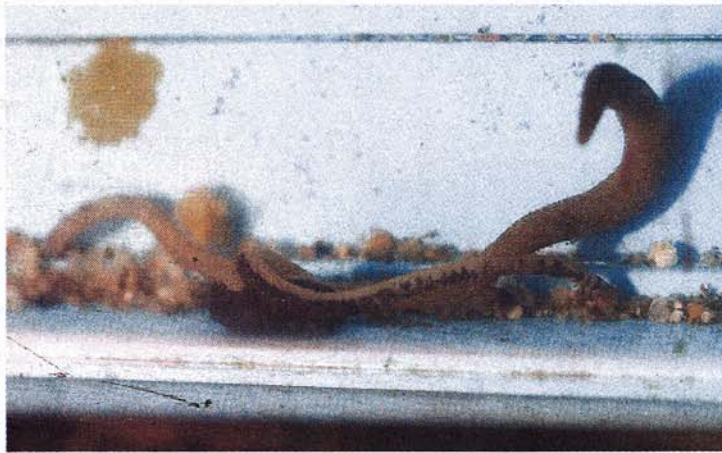


サメハダホシムシ



サメハダホシムシ (水槽番号228)

水族館へ行こう!

京都大学白浜水族館

白山 義久

のようだとこのので、この名前が付いた。

星口動物の最大の特徴は消化管の反転である。

第2水槽室に小さな水槽が並んでいるコーナーがある。ここにミニズのような細長い体つきの動物

口から始まる消化管は後ろに向かって真っすぐに伸びる。しかし、体の最後端まで来て、消化管は

のは1秒にも満たないが、大きなものは15秒くらいになる。大方の種

は海底や岩に掘った穴、岩のすき間、巻き貝の殻などにすんでいる。もし肛門が体の後方にあると、排せつ物が巢穴に

肛門が体の後端にある。着底して変態が進んで穴で暮らすようになると、肛門の位置が体の前方へ移動し始める。あるいは肛門より後側に胴体が伸びてゆく。

生理的にも星口動物は穴にすむことによく適応している。穴の中は酸欠状態になりやすいが、貧酸素の状態に驚くほど強

口の近くに肛門がある訳

物がある。色は薄茶色、表面は顆粒(かりゅう)状突起に覆われ、吻(ふん)を活発に出し入れして辺りを探っている。星口動物の仲間のサメハダホシムシである。

再び前方へ向かう。この反転後の消化管はらせん状で、吻と胴体との境界より少し後ろにある肛門(こうもん)につながる。

人間でいうと首の付け根あたりに相当する。なぜこんな所に肛門が開いているのだろうか?

普段は気付きにくいのが、星口動物はいろいろな場所で暮らしている。優秀な釣り餌とも言われている。太公望の皆さんは海岸で見掛けたら試してはいかがだろうか。

吻を伸ばしきった時、先端の触手が火花のように広がる。その様子が星

星口動物は、小さなも

幼生期には星口動物も

(京都大学瀬戸臨海実験所長)